

第2回勉強会 アンケート結果

□ 開催概要

開催日：令和8年5月23日（土） 14:00~15:30

参加者数：24名

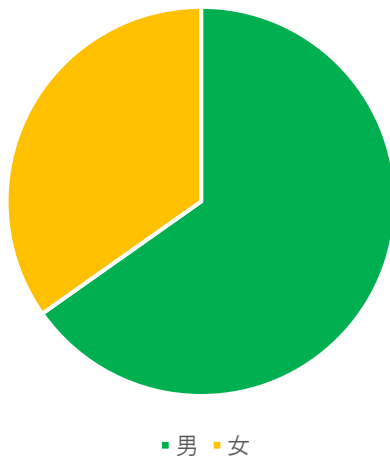
回答率：96%

□ アンケート集計結果

■ 問1. あなた自身のことについて

1. 性別

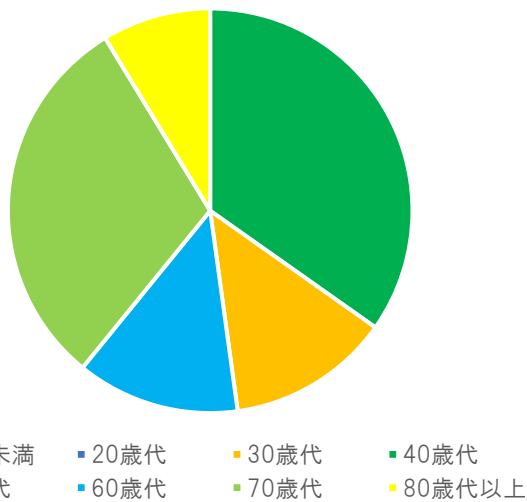
参加者男女比



参加者の内訳は男性15名、女性8名。2/3が男性、1/3が女性であった。

2. 年齢

参加者年齢構成



参加者の年齢内訳については40歳代が最も多く8名（35%）、次いで70歳代の7名（30%）であった。

■グループワークを通じて、学びになったことや気づきを教えてください。

- 市民の方々がどのような情報を欲しがっているのか、発信する側として何が足りないのかを
考える機会になった
- 情報というテーマでここまで議論が広がったこと自体が学びになった
- 情報の入手しやすく届ける重要性を改めて認識し
- 必要とする情報について、自分で気が付かないことがあった
- 地域医療の課題の多さが分かった
- 情報の発信側と受け手のミスマッチの解消が必要
- 情報発信と受け取り側のミスマッチがある
- 多くの市民が困っているときに問合せる場所等を知らず情報に飢えていると感じた
- 市民の力になるためには、情報を集め手軽につながれる方法を作るべき
- 情報の発信元と受け取り手のミスマッチが思ってた以上に大きかった
- 発信方法を検討したい
- 多世代で構成されたグループだったため、背景が異なり、現実味のある話が聞けた
- 医療情報を分かりやすく提供することが大切
- 今すでに存在している情報を広げる工夫についてや、子どもの頃から又は親子で学んでいく
予防的医療についてなど、今後取り組んでいくべきかが、少しずつ見え始めてきた
- 市民の方の意見を伺うことができ、行政として情報を伝えていたと思っていても、知られていない、
伝わっていないことが分かり、どうやったら必要な方に情報を伝えられるか考えるきっかけとなった
- わかっているはずだと思っていたが、多くの点で分からなかった
- 情報の共有化と行動の明確化が必要
- 各自が自覚を持つための情報の徹底
- 自治会等で取り組む必要がある
- 勉強会をできる限り多く開催していくことが重要
- 小児専門医療機関について詳しく知りたい人が多い
- 1人暮らしや老夫婦2人暮らしの方が緊急に状態変化した時にどうしたらいいかが今後の課題だと思った